

魔法少女の

調教遊戯



「アベンジャー」のカードを回収して数日の事…
美遊の身体にはあきらかな異変が起きていた… 体がほてり、
息を荒立てる…、どす黒くも淫靡な感情が湧きたつのだった。
この途方もない感情を速やかに処理すべく…
エーデルフェルト家の地下、使われていなかったはずの倉庫は…
いまは美遊によって奴隷の飼育小屋として利用されるのだった…

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

「喜んで、お前はこの美遊さまの一人目の奴隷になったの♡
今日から私がお前のこと、飽きるまでいっっぱい。
かわいがってあげる♡フッフフ、もしかして変態なの？
あそこがもう硬くなってるわ、おもしろーい♡
じゃあ、毎日楽しませてもらうから、覚悟してね♡」





「まあまあ、私のパンツ見て興奮してるの？ 変態ですね♡
これは立場がまだわかってないようね♡ じゃあ念入りにお仕置きします♡
ほらほら、どう？ どう？ ○学生にチ○コふまれてどんな気分？
フッフ♡
こんなに硬くそそり立たせて…自分の大事な所踏まれるのに興奮してるの？
変態♡変態♡変態♡♡フッフ、正直引いたわ♡」



あしなご

「はい♡ どっばあーん♡ わああ♡ こんなに出して…♡
そんなに気持ちよかったの？
○学生にチ○コ踏まれて気持ちよかったんだあ♡ 信じられないほどクスですわね♡
クスクスクス、ほんとダメち○ぽ♡
このイキやすいち○ぽにこれからみっちり私のルールを
刻みこんであげるから♡ フッフ、なに？ 嬉しいの？ キモい♡」

トッ♡

キョ♡

ひちゅ♡

ああん♡

ああん♡

「体育で汗かいちゃった♡ フフフフ、私の汗かき蒸れま〇こ
そんなに美味しいですか？ 夢中で舐めてる♡
もっと綺麗に舐めなさい♡ もっと優しく、がつつかないの！
いや♡ 鼻息があたってくすぐったいわ♡ もうダメ奴隷ね♡
しつけ直さないとダメみたい♡ ああん♡」

むれ♡

むれ♡

♡〇♡
♡〇♡
♡〇♡

ああん♡

♡〇♡
♡〇♡
♡〇♡

♡〇♡
♡〇♡
♡〇♡



あま〜あま〜あま〜♡♡♡

んんんん♡♡♡

び〜
ちや♡♡

び〜
ちや♡♡

び〜
ちや♡♡

んんんん♡♡♡

「ひゃあーん♡ ああーああ…♡ ああ〜あ♡♡♡
お前のせいでお潮もらしちゃった♡♡♡♡♡
何うれしそうな顔してるのですか？ このクズ奴隷♡♡♡
いいからはやく舐め取りなさい♡♡♡♡♡
それがお前の仕事でしょ？ ふふふふふふ♡♡♡♡♡」

ほらほら♡♡♡

ほらほら♡♡♡

ぬるぬる♡♡♡

「どう？ 今日プールの授業抜けだして、様子
見に来てやったのよ？ 嬉しいでしょ♡
あらあら、待ってられたの？ おりこうさん♡♡
じゃあご褒美あげちゃう♡
ほら、すべすべでキモチイでしょ？ フッフ♡
でも出しちゃダメよ？ 我慢できたらもっとご
褒美あげる♡」



あーらーらー

フッフッフッフ...

グハッ〜!!

「あーらーらー♥ 残念、結構頑張ったみたいだ
けど、あと一歩だったね♥♥♥♥♥
ダメ奴隷は刺激が強すぎたかしら? だって
お前はドMですものね♥ ふうふう♥♥♥♥♥
また今度頑張りなさい♥♥♥♥♥ そしたら……
もっといいコトしてあげる♥」

フフフ…♡♡♡

♡♡♡

「ルヴィアさんの趣味でこんな服装せられちゃった♡
そう、バニーガールだって、フフフどう似合う？　ねえ知ってる？

うさぎってすごく性欲が強い生き物らしいの♡

ふふふ、私もこんな格好したら、変な気分になっちゃった♡

だから特別♡　今日はお前のチ○コを使ってあげる♡

美遊さまの○学生ま○こが味わえるのよ？　光栄に思いなさい♡」

くちゅ♡♡

くちゅ♡

くちゅ♡♡



ああん

あん

ト
ゴ
カ
カ
カ

「ああん♡♡♡ 膣内で大きくするなあ♡♡♡ ああん♡♡♡♡♡
ほら、もっと腰動かして♡♡♡ もっと気持ちよくなりたいの♡
ああん♡♡♡♡♡ だめ、もっとです♡♡♡♡♡ ああん♡♡♡♡♡
ふふふ♡♡♡ ビュービューって、いっぱい出ましたねえ♡♡♡♡♡
あなたのを一滴残らず絞り尽くして
何も考えられない変態奴隷にしてあげるから♡♡♡♡♡♡♡♡♡」



ああん♡

ああん♡

あはは♡

あはは♡

ギョッ♡

ギョッ♡

ドクッ♡

ドクッ♡

「ああん♡ いいですねその調子その調子♡
 子宮の奥まで当たってる♡
 ああん、癖になりそう♡ 突き上げられてオナカがポコって
 フフフ、お前ってチ○ポだけは
 立派なのね♡ ほんと宝の持ち腐れ♡ なに？
 けない顔して、イキそうなの？
 じゃあまたビューってしてみても♡ ビューって
 さあ、早く出さない♡
 じゃないとオチンコ離してあげないから♡」

あーん♡

ん♡♡♡

あまあーん♡

あまあーん♡

「わああーい♡ 射精た射精た♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
さつきよりも激しくズビュってなったね♡ えらいえらい♡♡♡
お前もち〇ほ奴隷としての自覚が出来たのかな？ フッフ♡♡♡
ってなにへにやってるの？♡♡♡♡♡
こんなのじゃ足りないは、私が満足するまで♡♡♡♡♡♡♡♡♡
何度だってイかせてやるんだから♡♡♡♡♡♡♡♡♡
発狂したってやめてあげないんだから♡♡♡♡♡
分かった？ せいぜい頑張るなさい…♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

グッ♡♡♡!!



男の精液を絞りこみ、た美遊は、不気味に輝いていた。魔の呪印が光を増す。光は美遊を包み込むと怪しい黒い光を放つ。光がおぞましく黒化した姿を現した。妖艶に笑うその姿は、怪しくも美しく、卑猥で、淫靡で、妖艶で、卑猥で、神々しかつた。



「んんんんんんんん ああ、なぜだかすごくいい気分です♡♡♡♡♡
ふふふ、どうしたの？私の姿に見とれた♡♡♡♡♡
クスクス、ち○ぽ硬くなってる♡♡♡♡♡
お前ってばわかりやすいやつね♡ いいわ、じゃあ今まで以上に
遊んであげる、あたし今身体が火照ってしょうがないの♡
だからー、簡単に気絶とかしたら許さないから、
そのつもりでいてね？ ふふふ♡♡♡♡♡ふふふふふふふふふふ♡♡♡」



「はいはあーい、みんながんばって

ザーメン射精んですよー♡ ふふふふ♡♡♡♡♡

こちら、奴隷4号！ 私の身体にかけろって言ったわよね？

何外してるのよ？ 2号みたいに捨てちゃうわよ♡

しかしみんなよくもまあ○学生にいいようにされちゃう変

態ばかりこんな集まったものね♡♡♡♡♡

カッコ悪いですね♡♡♡♡♡ ふふふふ♡♡♡♡♡」

ピチッ♡♡

ピチッ♡♡

♡♡

ピチッ♡♡

♡♡ピチッ♡♡

♡♡ピチッ♡♡

♡♡ピチッ♡♡

♡♡

「フフフ、グズばかりね♡
あなたたちみたいなのダメ奴隷はこのミウ様が、
死ぬまでめんどうみてあげる♡♡
だからたくさん射精しなさい♡♡♡♡
私が全部絞りとってあげる♡♡♡♡
何度でも…何度でも♡♡♡♡♡♡」

薄暗くあやしい屋敷の地下で、美遊による淫靡で甘美で
淫猥な宴は今夜も続いたのであった………

